

曲阜師範大学交換教員報告

中国に本を送る

Sent books for China

Report of Exchange professor in Qufu Normal University

社会福祉学部 斎藤 美磨
Yoshimaro SAITO

要約

平成13年11月から3月まで、山口県立大学より曲阜師範大学の交換教員として派遣され、中国の各地を回り、障害児の教育の実態を見てきました。中国の庶民の生活を実感するために、春節の10日間ほどホームステイで棗庄市の民家で過ごさせてもらいました。

中国の人の日本への関心は強いのですが、間違っただ情報も多く、確かな情報を伝えることの必要性を感じました。

曲阜においては曲阜師範大学外国語学部日本語学科の学生を相手に日本語で、「日本の戦後」という主題で15回の講義を行い、中国人学生との交流を行いました。また、日本人留学生、日本人教員と協力して日本語学科の学生100人を相手として、カレー、煮込み、おにぎりを主体としたパーティを催し、クリスマスパーティ、餃子パーティに招待されました。

日本の文化を伝えるという交換教員としての役割を果たすのに不足をしているものをあげますと、日本のテレビ番組、ラジオ番組、情報機器、食料、衣服等々ありますが、もっともほしいものは日本の書籍でした。

日本の本が少なく、文学書の不足を強く感じました。教室で使われている教科書の日本の会話も、設定状態のありえない場面の会話で日本語の理解を助けるようなものではありませんでした。旅の途中で、日本語のガイドを頼んでおりましたが、古い日本語、もう使っていないことばでの会話にもなりました。

そんなところから、雑誌であれ、新聞であれ、

文学書であれ、どんな本でもほしいというのが、筆者の感じ、曲阜師範大学外国語学部日本語学科で、ぜひとも日本語学科であらゆる日本語の本がほしい、日本語の図書室を作りたいということが伝えられ、それでは実際に日本から本は集められるのか、送れるのかということとなり、日本から曲阜師範大学日本語学科（現在は曲阜師範大学外国語学院日本語学部）に送る方向で検討を開始し、実行しました。

1 はじめに

平成13年11月から3月まで、山口県立大学より曲阜師範大学の交換教員として派遣され、中国の雲南の景洪、麗江、昆明、大理、北京、徐州、泰山、濟南、青島各地を回ってきました。その中で、障害児の教育の実態を見ていたのですが、場所によっては恥ずかしくて見せられないというところもありましたし、中国の庶民の生活を実感するために、ホームステイで春節を10日ほど過ごさせてもらいました。

中国の人の日本への関心は強く、間違っただ情報も多く、確かな情報を伝えることの必要性を感じておりました。

曲阜においては曲阜師範大学外国語学部日本語学科の学生を相手に日本語で、「日本の戦後」という主題で15回の講義を行い、中国人学生との交流を行いました。この中で、日本の文化を伝えるという交換教員としての役割を果たすのに、不足をしているものをあげますと、日本のテレビ番組、ラジオ番組、情報機器、食料、衣服等々ありますが、もっともほしいものは日本の書籍でした。

中国に本を送る

日本語学科2年生の読もうとしているのは、夏目漱石のところで日本人でも難しい内容で、当人も当惑しておりましたが、日本の本であるのはこれくらいということで、文学書の不足をつよく感じました。教室で使われている教科書の日本の会話も、設定状態のありえない場面の会話で日本語の理解を助けるようなものではありませんでした。

また、旅の途中で、日本語のガイドを頼んでおりましたが、古い日本語、もう使っていないことばでの会話にもなりました。そんなところから、雑誌であれ、新聞であれ、文学書であれ、どんな本でもほしいというのが、筆者の感じたことでした。

そんな折に、日本からの日本語を教えるための神奈川県からの派遣教員鈴木啓之に出会い、お互いによい本の不足を感じており、なんとかしたいということで共通の考えをもつことを確認しました。

同じ国際交流会館という宿舎の中で話し合っているうちに、曲阜師範大学外国語学部日本語学科主任袁广泉とも連絡が取れ、ぜひとも日本語学科であらゆる日本語の本がほしい、日本語の図書室を作りたいということが伝えられ、それでは実際に日本から本は集められるのか、送れるのかということとなり、何とか日本から曲阜師範大学日本語学科（現在は曲阜師範大学外国語学院日本語学部）に送る方向で検討を開始しました。

2 目的

曲阜師範大学外国語学院日本語学部日本で不要となった日本語の本を贈る。

3 役割分担

集本作業 日本で本を集めるのは神奈川県からの派遣教員鈴木啓之が担当し、一時帰国する平成14年1月に日本に帰ったときにまとめる。本は神奈川県で廃校となる学校の図書室の本とする。

本の送付 日本から中国に本を送るのは、斎藤美麿の担当とし当初、曲阜からの山口県立大学にくる旅行団に持参してもらうということで、斎藤

の手元に本を置き、夏まで斎藤が保管する。また、この旅行団で持参が不可能な事態が生じたときには、コンテナ輸送その他の方法で日本からの送付手続きを行う。

本の受け取り 中国で本を受け取るのは曲阜師範大学外国語学院日本語学部主任袁广泉が責任を持つ。

4 本の収集と整理

神奈川県で、司書らの援助を受けて、文芸書、教科書、雑誌（表参照）が2,143冊789キログラムダンボール箱にして51箱集められた。

内容は辞典、国語の教科書、歴史の教科書、数学の教科書、授業の資料集、小説、ブルーガイド等の旅行案内、文学全集、週間朝日等である。資料1

あまりの本の多さに旅行団の携行品として持ち帰るのに多すぎる内容となり、斎藤の帰国後急遽、下関・青島間のオリエンツフェリーのコンテナ便を利用することとなった。

中国に認められる法人でなくては本の送付のできないことから、神奈川から2月20日に山口県立大学斎藤美麿当に本が繰られてきたが、斎藤美麿が中国にまだ残っていることから、本は山口県立大学に置いてある状態で休眠となる。

斎藤が帰国してから本の整理をはじめ、手続きの名義人、および中国、日本の事務文書の作成を非特定営利法人OIDEMASEに依頼し、あわせて、この会より、山口県内の人たちへ輸送費の協力を求めた。

OIDEMASEより、斎藤に要求された作業内容は、必要な書類と本の整理、仕分け、箱詰に関して、資料Ⅱのごとくである。

贈書のリスト 本のタイトル、総冊数、人はこの重さ、箱の大きさ、箱の大きさ別に箱数

各箱には 送り主名、箱番号の入った貨物マークをつける。

送り主名、箱番号の入った貨物マーク見本

OIDEMASEより、要請された本の仕分けと内

容の精選を行い、OIDEMASEでは送付手続き書類の作成に入った。

5 作業日程

2月初旬 神奈川において本の収集
4月8日贈書リスト作成開始 曲阜に関係している学生ボランティアの協力を得る。

4月15日贈書リスト作成終了

作業手順1 斎藤の下に届けられた本は、中国に送るに適した本か、否かを検討する。

作業手順2 箱詰め、箱の重さ、本の種類の確認、本の名称の一覧を作成する。

作業手順3 今回は本にタック紙を貼り付け、箱の番号に本の番号を付ける。

例 箱番号4 本番号23 新日本史A
であれば 4-23がタック紙に書かれる符号である。

作業手順4 箱の重さと縦、横、高さを計測する

作業手順5 本の名称の一覧を3部印刷し、一部は箱に貼り付ける一部は冊子とし一部は保存用とする。別紙

反省 このときに、本の大きさ、内容ではなく、出版社、全集の別にまとめれば送付手続きに必要な書類の作成の容易なことがわかった。

5月30日 送付する本と、必要書類をつけて、下関のオリエンツフェリーに業者のトラックで回送。

6月1日 下関関光汽船で通関手続き開始
OIDEMASEから、日本の税関に提出する書類、オリエンツフェリーに提出する書類

6月6日 下関よりユートピア3号で青島へ速やかに、青島において受け取りに必要な書類を曲阜師範大学外国語学院日本語学部主任袁广泉に送る。

電話連絡、インターネットを介してコンテナの発日

7月6日曲阜で本の受け取り
その夜の曲阜からのメールです。

「図書51箱、昨日の夜国際交流センターの車で届きました。今日、早速学生が約二十人も来て、それぞれ数冊ずつ借りていきました。」

山口での作業開始より3ヶ月ですが神奈川での作業開始が2月ですので全部で5ヶ月を要しました。

6 本を送るのに必要な書類

日本から曲阜師範大学外国語学院日本語学部主任袁广泉に送る書類

日本における本の送付の手続きと必要書類
書類一式

贈書協議書 別紙

通関業者に対して 船荷証券 3部

船荷証券コピー 5部

INVOICE PACKING LISI 1部

輸出許可通知書 1部

贈書リスト 1部 非木質包装証明書 委任状
箱番号の入った貨物マーク見本

7 中国において 本の受け取りと手続き

中国の窓口として曲阜師範大学外国語学院日本語学部主任袁广泉より紹介を受け

青島国際交流中心を本を受け取る窓口とし、OIDEMASEを本を贈る窓口としての契約書を交わした。

8 本の受け取り

本を日本から送り出し、必要書類を送付し、中国での本の確認作業を終えて、曲阜師範大学に本が届いたのは、7月5日深夜Emailで袁广泉老師より、曲阜師範大学の車で本が大学に入ったとの連絡が入り、青島で受け取り費用は7650元であったことが知らされた。

早速開封し、学生が速やかに借り出しをはじめ、日本の本の読める状態となった。

7月6日の袁广泉主任よりのメール

「図書51箱、昨日の夜国際交流センターの車で届きました。今日、早速学生が約二十人も来て、それぞれ数冊ずつ借りていきました。」

曲阜師範大学学長よりの感謝状

こちら曲阜はもう真夏に入っております、たいへん暑い毎日ですが、山口のほうもさぞお暑いでしょう。貴会の皆様方はみんなお元気でいらっしゃいますか。

弊学外国語学院日本語学部へご贈呈の図書は昨日無事到着いたしました。ご尽力くださいまして、誠にありがとうございました。

医療や教育など幅広い社会問題を視野に入れて発足された貴会では、初めての活動として、ご協力を引き受けられたことを、光栄に存じております。また、今後もこの活動を継続されるために、広く日本の皆さんに協力を呼びかけていると聞いており、感謝の気持ちを禁じ得ません。

弊学は山口県立大学など日本の多くの大学と提携関係を締結させていただき、多大なご支援をいただいております。今回、その延長として、斎藤先生を通じて、貴会からもお力を貸してくださるようになり、お陰で弊学の日本語学部の教員や学生諸君が大いに励まされておりますので、わたくしとしては、嬉しい限りでございます。どうか今後とも中日関係の恒久的発展に役立つような人材養成のために、引き続きご支援くださるよう、よろしくお願い申し上げます。

貴会のますますのご発展と、皆様方のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

有り難うございました。

2002年07月04日

曲阜師範大学学長



OIDEMASE 岩本晋 殿

贈書協議書

中国山東省青島市にある「中国青島国際交流中心」(以下甲と称す)と日本の山口市にある「特定非営利活動法人 おいでませ」(以下乙と称す)は、中日友好をさらに深める目的で以て、甲を窓口にして中国の関係教育機関や図書館に贈書を行うことについて協議し、下記の諸項目を内容とする協議書を締結することに至りました。

1. 中国山東省の学校や図書館などで大量に日本語の図書が必要とする要請があった場合、港がある青島市の甲を窓口として、日本からの贈書を受け入れるものとする。

その場合、一回の量は段ボール箱 50～55箱とし、年3回を限度とする。
ただし、この際の包装に使用される段ボール箱は、非木質材料であること。

2. 費用については、その都度協議の上決定することとするが、基本的に日本での通関後船積みまでの費用は乙が負担し、船積み後の海上運賃及び中国側の通関費用などは、甲が負担するものとする。

3. 甲乙の間で問題が生じた場合には、双方で友好を第一に協議をし、誠意を以て処理するものとする。

この協議書は、一式二通作成し、甲乙双方で記名捺印の上、一通ずつ所持するものとする。

以上、正式協議内容とする。

平成14年5月18日

甲 中国青島国際交流中心



王雪梅

(郵便番号 266071 青島市東海路 16号 5F)

乙 特定非営利活動法人 おいでませ

理事長

河野俊

(日本国山口県山口市泉都町7番18号)



中国に本を送る

9 費用

中国に本を送るにかかる費用は今回以下のようにです。

本の冊数2432冊
約800キログラム
建前上6万円
山口県立大学から下関まで1万円
日本の通関手数料 4万円
青島で受け取りの費用7650円(約12万円)、
これに青島から、必要とする大学までの輸送費。
OIDEMASEからの国際通信費用

10 今後の発展

日本から中国に本を送るには、送る側、受け取る側双方にお金がかかります。いくらよいことをしているといっても、先方にとっては大きな負担となること知っておく必要があります。

今回は、本を集める人、受け取る人、中継ぎをする人がうまくそろっておりました。これに加えて 山口県のNPO法人 OIEMASE(理事長 河野俊貞)という組織があったおかげで無事、本を贈ることができました。

このうちのどれがかけても本の送付はできませんでした。

今後、日本から本を贈るのに必要な概略を記しましたが、実際の手続きにいろいろな困難がつかえます。神奈川の本の収集、齋藤の本の整理、OIDEMASEの書類等で蓄積したノウハウが必要となります。

日本の各地から、中国への本の送付があれば、中国の人たちが日本を理解する、日本語がわかる、日本の生活習慣のわかることが可能となっていきます。

中国には、日本の本は組織的に入っておりません、日本人旅行者の残して本を読んでいます、持参した人の好みにより、本に偏りもあります。

日本のファッション雑誌、カタログ、週刊誌、小説等、齋藤は現地で見ることができませんでしたし、中国の人たちが知りたがっている情報がこの中には入っております。

今回、週刊誌、新聞を贈ることはできませんでしたが、中国に送れる週刊誌、雑誌を選んで送りたいものと思います。

11 中国の中での別の大学への本の送付について

1 青島大学への本の送付

今回の事業を行っているときに、同じような希望が泰山医学院、青島大学においても発生し、今回は青島大への本の送付を考えている。

ただし、青島大学の中での本の受け取り費用の確認は取れていない。

平成15年2月までに、神奈川県で前回同様の本を集めているが、これに関しては、前回の試行により、神奈川での本の整理は行わず、山口において齋藤が整理、箱詰を行い送付に適した形態とする。

OIEMASEでは本の送付に関しての準備はすんでおり、いつでも対応できる。

結局、青島大学での受け取りの費用の問題であり、不可能ならば、別の大学、たとえば曲阜師範大学への再度の送付も起こりうることになります。

12 おわりに

日本から中国に本を送るには、受け取り側にもお金がかかることになります。先方にとっては大きな負担となりますので、事前の了解なしに本を贈ることはできません。

今回は、本を集める神奈川県の鈴木啓之、受け取りに曲阜師範大学の袁广泉、中継ぎに山口県立大学の齋藤美磨がいて、OIDEMASEという組織があったおかげで無事、本を贈ることができました。

今後、本を贈るのには、OIDEMASEで蓄積したノウハウが必要となりますが、いつでもOIDEMASEが協力してくれることになっております。

13 協力機関

神奈川県において本の提供をした県立高校。
平塚西工業技術高等学校
平塚工業高等学校

大磯高等学校
高浜高等学校
大船工業技術高等学校
深沢高等学校

作業は平塚西工業技術高等学校の有志の職員、
および、上記の学校の司書方に手伝って戴きました。

SUMMARY

From November,2001 to March,2002 I went to China it was dispatched as an exchange teacher of the Qufu Normal university from Yamaguchi Prefectural University. I saw the actual condition of a handicapped child's education has been seen for every place in China. In order to realize a life of Chinese people, I was allowed to pass by home stay for about ten days of Vernal Equinox Day in small city's private house.

, Chinese people have strong the concern about Japan, but there was also much wrong information and the necessity for telling clear information was felt.

In Qufu, I lectured by Japanese language the theme of "the postwar period of Japan" for the student of the Qufu normal university foreign language faculty Japanese subject of study.

Moreover, the party which made Japanese style curry, stew, and the rice ball the subject

against 100 students of a Japanese subject of study in cooperation with the Japanese foreign student and the Japanese teacher help me.

And Qufu Normal University's I invited to Christsasu Party and the Chinese meat dumpling party.

When I showed a role of an exchange teacher of telling Japanese culture, there is not ihe Japanese books , such as a TV program of Japan, a radio program, information machines and equipment, food, and clothes There were few Japanese books and shortage of a literary document was felt strong.

It was what would help a Japanese understanding in the conversation of the scene where the conversation of Japan of the textbook currently used in the classroom cannot have a setting state, either last. In the middle of the trip, although it had asked the Japanese guide, it also became the conversation in old Japanese and the language which is not used any longer.

Dr. Eng Kosen who is the Qufu Normal university foreign language faculty Japanese subject of study want to get any Japanese books for his students.

Then, we challenged to send books to China and now they got Japanese books.